

# No. 1180

## 海に学ぶ

193

名神 (2)  
あり

— 愛知・名古屋 —

中部地方、9県の小学校から代表328人が参加して中日海洋エクカーションが8月17日から2日間に渡って開かれました。これは中日新聞社が毎年開いているもので小学生に船旅を体験させ海への関心と、規律と協調の精神を養なわせるのを目的とし、今年で15回目。この日の名古屋港は真っ青な空が広がり絶妙の船出日和。小学生を乗せた「にっぽん丸」は五色のテープの見送りを受け室戸岬へ向け一泊2日の航海に出港しました。

子供たちは各班に別れて、さっそく自己紹介。言葉や生活のちがいを越えてさっそく仲よしに。

ブリッジでは、船を動かすのに必要なレーダーや計器類の役割などのお話に耳を傾け、今日ばかりは船長さんになったつもりではりきっていた。手旗信号の実習。ほとんどの子供は初めての体験。それでもなれない手つきで指導員の笛に一生懸命合わせていた。限りなく続く空と海、そして楽しい船での生活。子供たちには忘れられない思い出になることでしょう。

## 泥沼の自民抗争

279

お

国民不在のまま、どこまでもくりひろげられる自民党内の政治抗争。

「解散、総選挙は自分の手でやる」という三木首相。臨時国会前の退陣を求める福田副総理と大平蔵相。これまでの盟友関係がウソのような変りようだ。

「三木首相はもう統治能力がない」「三木内閣はもう、待ったなしで時間がない」と両氏が批判すれば、中曽根幹事長ら主流派は議員懇談会を開き説得工作を展開。しかし、反主流各派は8月24日議員総会を強行、船田氏は「多年の友人でありますが大平首相に対してまことに信頼をおくことができません」と厳しく批判した。混迷した政局を話し合いで収拾しようという三者会談は24日、25日の2日間に渡って首相官邸で開かれた。しかし三木首相は

「解散前に退陣しない」と重ねて強調した。これに対し、福田、大平両氏は総選挙前の退陣を迫り、話し合いは結局、平行線に終始した。

解決の糸口を見つけ得ぬまま、自民党の政権抗争は一層泥沼の様相を帯びてきた。